

映像交流

視聴覚事業では、テレビと映画を主な媒体として、日本文化の紹介を行なっている。これらの映像メディアは大衆性と芸術性を併せ持ち、海外の多くの人々に日本の姿をわかりやすく伝えるための有効な手段となっている。

日本映画の評価が近年大きく高まるなか、海外の国際映画祭などからの出品要請もますます増加の傾向にある。また、日本のテレビ番組に対する関心も依然として強く、今後とも、これらの映像交流事業について、一層の拡充を図っていきたい。

1. テレビ番組交流促進事

日本のテレビ番組(ドラマ、ドキュメンタリー、教育番組等)および劇映画・文化映画などを、海外の放送機関に提供しテレビ放映することにより、日本の社会文化を海外の一般国民に紹介する。基金は素材費・放映権料を負担する。

- ・イラク：『おしん』(96話)
- ・エルサルバドル：『プロジェクトX』(13話)など2番組
- ・ガーナ：『腕におぼえあり』(12話)

2. テレビ番組の語版改編

財団法人放送番組国際交流センター(JAMCO)との共同事業で、日本の社会文化を広く海外に紹介するのに適したテレビ番組をNHK・民放各社制作の番組から選び、その国際版を制作する。

- ・ドラマ：『海猿 海の捜査線 海上保安官物語』前編・後編(英語版)
- ・ドキュメンタリー：『生涯一エンジニア：ノーベル化学賞・田中耕一さん』(英語版)

3. 国際会議

JAMCOとの共催で、今後の放送事業のあり方を検討する国際シンポジウムを開催する。

- ・「第13回JAMCOウェブサイト国際シンポジウム『日本』を超える日本のテレビドラマ：そのトランスナショナルな意味と影響」
ウェブサイトを活用し、テレビ放送関係者4人の講演とそれに対する3人からのコメントによりシンポジウムを実施した。テレビメディアを通しての文化理解促進のあり方にヒントを与える議論が交わされた。

4. フィルムライブラリーの充実

秀れた劇映画および文化映画の外国語字幕版・吹替版を本部フィルムライブラリーに収集するほか、在外公館および基金事務所フィルムライブラリーに購送する。

本年度は本部フィルムライブラリーに優良劇映画(『たそがれ清兵衛』『MONDAY』『青い春』『害虫』ほか)の英語字幕付35ミリフィルムを購入し、海外のフィルムライブラリーには、前年度公開作品を中心に優良劇映画(『たそがれ清兵衛』『森の学校』『ごめん』『AIKI』ほか)の各国語(英語、仏語、独語、伊語、西語、ポルトガル語、中国語、タイ語、インドネシア語、アラビア語、韓国語)字幕付16ミリフィルムおよび露語字幕付35ミリフィルムを購送した。

5. 映画制作助成(映画・テレビ番組制作協力)

海外における日本理解を促進するため、内外の団体が制作する日本に関する映画、テレビ番組その他視聴覚資料に対して、制作費の一部を負担する。

2003年度10月より従来の助成方針を見直し、より主導的に内外の団体と共同で日本に関する映像資料を作成することとした。

- ・“Japanese Women, the smooth revolution”(フランス/Les TV Makers)
- ・『ヒバクシャ：世界の終わりに』(日本/櫛グループ現代)

6. 海外における日本映画の上映

<2003年度事業例>

- ・「日ASEAN交流年記念巡回日本映画祭」(9月~12月)
インドネシア、フィリピン、ベトナムにおいて日・ASEAN諸国共同制作作品を上映した。
- ・「アニメ映画祭」(中米)(8月~12月)
ニカラグア、メキシコ、グアテマラ、キューバの中米4か国においてスペイン語字幕によるアニメ4作品を上映した。
- ・「ATG特集」(10月~2月)
ウィーン国際映画祭でアート・シアター・ギルド作品を特集上映した後、ケルン日本文化会館を含むドイツ数か所においても同特集上映を行なった。



日本ASEAN交流年映画祭(フィリピン、マニラ)

7. 国内映画祭等への助成

<2003年度事業例>

- 「アジアフォーカス福岡映画祭03」
アジア各国の作品を紹介する映画祭を行った。
- 「イタリア映画祭2003」
イタリア映画の日本未公開新作11本を上映した。

8. 国際交流基金映画祭

<2003年度事業例>

- 「小津安二郎生誕百年記念国際シンポジウムOZU2003」
小津安二郎監督生誕百年を記念して国内外の映画評論家、映画監督が会してシンポジウムを行ない、小津監督へのオマージュとしての作品を上映した。

